

K120.73

41

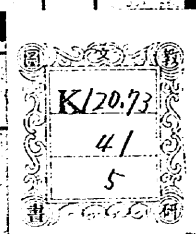
5

教育音樂講習會編纂

第五集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版



教育音樂講習會編纂

第五集

新編
教育唱歌集

東京
開成館藏版

明治

38 8 24

內交

新編教育唱歌集第五集目次

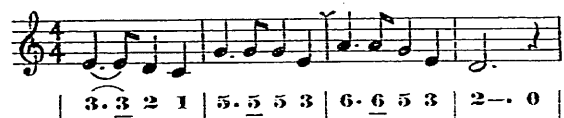
一 須磨明石 (國定讀本歌詞)	一	九 菅公	一七
二 春の景色 (國定讀本歌詞)	三	一〇 千里の道 (音樂學校許可)	一九
三 富士山 (國定讀本歌詞)	五	一一 めぐれる車 (音樂學校許可)	二一
四 夏やすみ (國定讀本歌詞)	七	一二 送別	二三
五 水の變態 (國定讀本歌詞)	九	一三 日光	二五
六 海國男子 (國定讀本歌詞)	一一	一四 朧月夜 (音樂學校許可)	二七
七 奈良 (國定讀本歌詞)	一三	一五 湖上の花	二九
八 聯隊旗 (國定讀本歌詞)	一五	一六 五常の歌 (音樂學校許可)	三一

(第五集)
(第五集)

一七 吉野山	三六	二六 旅の思	五五
一八 夏は來ぬ	三七	二七 四條畷	五七
一九 水およぎ	三九	二八 川中島	六二
二〇 舊友	四三	二九 衛生隊	六三
二一 西郷隆盛	四四	三〇 わが陸軍	六六
二二 雪中の梅松	四七		
二三 君が代の初春 (音樂學校許可)	四九		
二四 朝景色	五一		
二五 柳と蛙	五三		

目次終

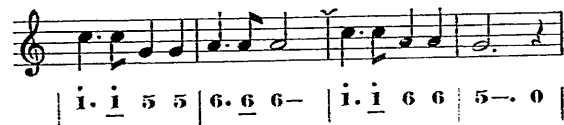
須磨明石



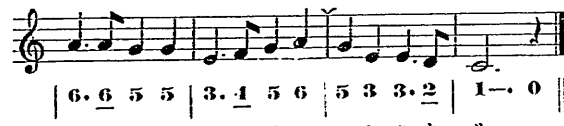
(一) マ ツ ハ ミ ド リ ニ ス ナ シ ロ クー
(二) ほ か け て い ー づ る ふ れ お ほ くー
(三) サ ミ ノ ア ナ タ ニ イ ト チ カ クー



フ ケ イ ス ク ル ル ス マ ノ ウ ラー
あ さ う み に ぎ ほ ふ あ か し が たー
ミ ャ ル リ ク チ ハ ア ハ デ シ マー



イ ソ ベ ニ イ テ テー カ ヒ ヒ ロ フー
あ か し の し ろ もー ひ と ま ろ のー
カ ヨ フ キ セ ン ノー フ エ ノ ネ モー



コ ド モ モ ナ ガ メ ノ ヒ ト ツ ナ リー
や し ろ も こ の ま に み ゆ る な リー
ス ズ シ ク ナー ミ ニ ヒ ビ ク ナ リー

須磨明石

(一) 松は緑に砂白く、風景すぐる、須磨の浦。

磯邊に出て、貝拾ふ 子どももながめの一つなり。

(二) 帆かけて出づる舟多く、朝海にぎはふ明石渚。

明石の城も、人麻呂の 社も、木の間に見ゆるなり。

(三) 海のあなたにいと近く 見ゆる陸地は淡路島。

通ふ汽船の笛の音も 涼しく波にひびくなり。

春の景色



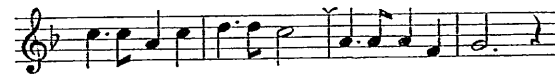
1 1 1 2 | 3. 2 1 2 | 3. 2 3 4 | 5- 0 |

(一) スーミレ ツミツツ カヘリユク
(二) てにもつばなを したひくる



3- 3 2 | 1. 2 3 5 | 2. 2 1 2 | 3- 0 |

ハールノ ユフベノ ムラノミ チー
ちーの こころの あいらしき



5. 5 3 5 | 6. 6 5- | 3. 3 3 1 | 2- 0 |

トモナヒ キタルー チョーフタ ツー
いざきて あそべー もろとも にー



3. 4 5 5 | 1. 2 3 3 | 4 3 3. 2 | 1- 0 ||

アルヒハ サキニ マタアト ニー
さーくら さかりの わがには にー

春の景色

(一) すみれつみつゝ 歸り行く

春のゆふべの村の道

ともなひ来る 蝶二つ。

あるひは先に、また後に。

(二) 手に持つ花を したひ来る

蝶の心の愛らしき。

いざ来て遊べ、もろともに、

桜さかりのわが庭に。

富士山



5- 5 6 | 5. 5 3 3 | 1. 1 7 6 | 5- 0

(一) キー シノ マドヨヨ ア フギ ミ ルー
(二) ふー れの へさきにながめや るー
(三) ヤー マハ セカイ ニ オホケレ ドー



6 6 1 1 | 5. 6 5 3 | 5 3 2. 3 | 1- 0

フー シノ スガタノ ケダカサ ヨー
ふー じの けしきの おもしろ ヤー
カタチノ ヨー キハ コノヤマ ゾー



2. 2 3 1 3 | 5. 6 5- | 6. 5 3 5 | 1- 0

クモヨリー ウヘニー ×ケイテ テー
さかさーにー うつー うなばら のー
ハルノカー スミノー タツア シター



6- 1 1 | 5. 6 5 3 | 5 3 2. 3 | 1- 0

イー ツ モ タカネノ ユキシロ シー
かー げ は えより も たくみに てー
アー キ ノ イ リ ヒ ノ サス ユ フ ベー

富士山

(一) 汽車の窓よりあふぎ見る 富士のすがたのけだかさよ。

雲より上にぬけ出でて、いつもたかねの雪白し。」

(二) 船のへさきにながめやる 富士のけしきのおもしろや。

さかさにうつるうなばらの 影は晝よりもたくみにて。」

(三) 山は世界に多けれど、形のよきはこの山ぞ。

春のかすみのたつあした、秋の入日のさすゆふへ。」

夏やすみ



1 13 5 5 | 6 16 5 5 | 4.3 2 6 | 5- 0 |

(一) コト シノ ナツ ノー ヤス ミニ ハー
(二) こ とー し の な つー のー や す み に はー
(三) カ ラー ダ チ キ ター フ ハ ヤ マ ノ ミ ナー
(四) い ざー い ざ ゆ かー んー こ の な つ もー



1. 3 5 5 | 6 16 5 5 | 4.3 2 3 | 1- 0 |

ヤ マ ニ ア ソー ビ テ カ ヘ リ コ シー
か い す い よ く もー こ ろ み んー
ク キ ノ ヨ キー ハー ウ ミ ノ ソー パー
ち ろ る と もー にー は と もー にー



2. 2 2 12 | 3.3 3 23 | 5.6 5 2 | 3- 0 |

マ ツ ノー コ カ タ ニー ヤ ス ミ テ ハー
よ せ て はー ゆー き とー ち る な み なー
ハ ナ ツ ミー アー ツ メー カ ヒ チ ト リー
か は れ るー さー とー のー な ら は し なー



5. 5 5 3 | 4. 4 4 2 | 3. 4 3 2 | 1- 0 |

タ キ ミ ル コー ト モ タ ノ シ ミ ヨー
た だ あ け キー くー れ の し と し てー
チ シ シ ヒー ム ル た エ も が び シー
み く も う ら し び な し てー

夏やすみ

(一)

ことしの夏の休には、山に遊びて、歸り來ん。
松の木蔭に休みては、瀧見ることとも樂よ。

(二)

ことしの夏の休には、海水浴もこゝろみん。
よせては雪とちる波を、ただあけくれの友として。

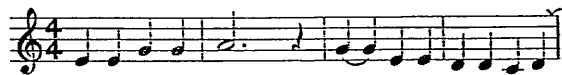
(三)

からだきたふは山の道、空氣のよきは海のそば。
花つみあつめ、貝を取り、知識ひろむる益多し。

(四)

いざいざ、行かん、この夏も、父もろともに、母ともに。
かはれる里のならばしを、見聞くもうれし、旅をして。

水の變態



3 3 5 5 | 6- 0 | 5 5 3 3 | 2 2 1 2 |
 (霧) チ ヤ マ ダ ノ キ リ ノ ナ カ ミ チ
 (雲) あ け フ わ た ア る ー か れ の く も し も
 (雨) ケ フ ノ ア メ ニ ハ ギ モ ナ バ
 (雪) ふ ら タ ノ の ハ マ シ ブ
 (霰) し ら ア の の ホ
 (霜) ア サ ヒ カ タ キ



3 3 5 5 | 6- 0 | 2 2 7 7 | 6 6 6 5 |
 フ ミ ヲ ケ テ ヒ ト ク ト ミ シ
 タ ナ ビ カ レー トー カ リ えー ヲ
 ヲ ナ ダ レー テー ー ー ー ナ
 タ エ ヲ ナ ハー ー ー ー ナ
 ミ エ ド ナ ラー ー ー ー ナ
 ヤ キ タ カ キー ー ー ー ナ

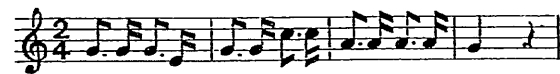


3 3 5 5 | 6- 5 3 | 2- 1- | 2- 0 ||
 カ ー シ ナ リ ケー リー
 ヲ ミ カ リ の ー フー ー
 ア キ シ ノ フー ー
 フ キ ノ フー ー
 リ カ ノ フー ー
 ル ア ノ フー ー
 は モ ノ フー ー
 シ ノ フー ー

水の變態

霧。を山田の霧の中道踏分けて人來と見しは、かゝしなりけり。
 雲。あけわたる高嶺の雲にたなびかれ、光消えゆく弓はりの月。
 雨。けふの雨に、萩も尾花もうなだれて、憂へがほなる秋の夕暮。
 雪。ふくる夜の檐の滴のたえゆくは、雨もや雪に降り變るらん。
 霰。むら雲のたえまに星は見えながら、夜行く袖に散る霰かな。
 露。白玉の秋の木の葉に宿れりと、見ゆるは、露の計るなりけり。
 霜。朝日さすかたへは消えて、檐高き家かげに残る霜の寒けさ。

海國男子



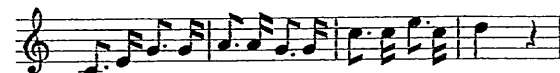
5. 5 5. 3 | 5. 5 1. 1 | 6. 6 6. 6 | 5 0 |

(一) が ス ム ニ ッ ボ テ イ コ ク ノ
(二) の か い ス ニ ク に ン ー ま れ た る
(三) マ ナ ス ま キ ノ ー お ホ ナ
(四) お よ の わ ざ も お こ な



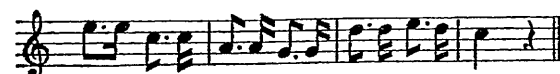
1. 2 3. 3 | 2. 1 6. 6 | 5. 6 5. 3 | 2 0 |

シ メ ン ハ カ ニ カ マ テ
に ッ ン だ ミ ー コ の れ
ま ッ ソ レ と あ そ ム ー ユ こ キ ャ
ぼ ー ズ の り し ャ ー る ャ
ソ ー ズ の り し ャ ー る ャ



1. 3 5. 5 | 6. 6 5. 5 | 1. 1 3. 1 | 2 0 |

イ ズ ニ ユ ク ニ モ サ チ カ テ
な み ち な お の が ー ー し ニ
ナ サ ナ ー ト キ ノ ー レ ー シ ャ
に ほ ー う み の ー く に な る



3. 3 1. 1 | 6. 6 5. 5 | 2. 2 3. 3 | 1 0 ||

カ ー ラ デ ス マ ン ミ チ ア ラ
ス ー ま ー ー か ー ゴ ー ー ー ー
ヨ ー ミ テ エ ウ ル の ー ー ー ー
ウ ー み は わ の ー ー ー ー

海國男子

(一) わがすむ日本帝國の 四面は海に圍まれて、

(二) いづくに行くにも、棹楫を 借らで、進まん道あらず。

(三) この海國に生れたる 日本男子は、國のため、

(四) 波路をおのが家として、住まん覺悟を定むべし。

(五) 山なす沖の大波も 恐れず進む勇氣こそ、

(六) をさなき時の練習に よりて、えらるゝ身の寶。

(七) 泳のわざも怠るな。ぼーとの遊もこゝろみよ。

(八) 日本は海の國なるぞ。海はわれらの家なるぞ。

奈 良

(一) ハ ナ ノ ゴ ト ク ニー サ カ エ タ ルー
 (二) てー ら に ま つ れ る だ い ぶ つ のー

ナー ラ ノ ミ ヤ コ ノ オ モ カ ゲ ヲー
 そ の こ ん り ー はー し ょー む て いー

サ ト セ ノ ノ チ ニー ナ ホ ノ コ スー
 こー じー き ん じ ゅ く ご す ん あ るー

メー イ ショ キ ュー セ キ カ ズ オ ホ キー
 ぞー ー な す 点 た る ぶ つ で ん のー

ナ カ ニ モ ナ ダ カ キ トー ガ イ ジー
 いー ら か く も ゐ に そ び え た リー

奈 良

(一)

花^{はな}の^ごと^くに^{さか}榮^ええ^たる^な奈^ら良^らの^{みやこ}都^の面^{おも}影^{かげ}を、

千^{ちとせ}歳^{のち}の^{うしろ}後^{にな}ほ^{のこ}残^すす^名所^{めいしよ}舊^{きよ}蹟^{せき}數^{かず}多^{おほ}き

中^{なか}に^も名^な高^{たか}き^と東^{とう}大^{だい}寺^じ。

(二)

寺^{てら}に^まよ^つれ^る大^{だい}佛^{ぶつ}の^{その}建^{けん}立^{りつ}は^し聖^{せい}武^む帝^{てい}。

五^ご丈^{じょう}三^{さん}尺^{じやく}五^ご寸^{すん}あ^るる^像を^{ぞう}す^みた^る佛^{ぶつ}殿^{でん}の

い^らか^か、雲^{くも}ぬ^にに^そび^えた^り。

聯 隊 旗

聯 隊 旗

わが^{てん}天皇の^み御手づから^さづけたまへる^{れん}聯隊旗^き。
 旗^{はた}のてがらは^{くに}國のほまれ。
 かたじけなくも、その^{へり}縁は
 またかしこくも、番號^{ばんごう}は
 長^{なが}き月^{つき}日^ひのその間^{あひだ}、
 軍馬^{ぐんば}の間^{あひだ}を往來^{おうらい}し、
 さげしを旗^{はた}のほまれとし、
 萬代^{よろづよ}までも、つたへゆく。
 聯隊旗^{れんたいき}こそたふとけれ。

管 公

3 3 1 3 | 2 3 3- | 6 6 7. 1 | 7- 0 |

(一) ガク シャノ イヘ ニー ミハ イデ テー
(二) おほはば おほへー くもきり よー
(三) シイカノ ソザ モー ヨニス グ レー

3 3 1 3 | 2 3 3- | 3 7 1. 7 | 6- 0 |

タチ マチ ノボ ルー グモノウ ヘー
こころの つきはー くもりな しー
モシカク ミチ ハー ヨロゾ ヨ ノー

7 1 7 6 3 | 7 1 7 6 7 | 3 1 3 2. 3 | 3- 0 |

ヨシー ソザ ハーニ カカールト モー
ただー いっ ベーん の せーちー なー
ノーリチ ツターヘテ ソノート グ チャー

3 1 7 6 | 7- 3 3 | 6 1 1. 7 | 6- 0 ||

イカ デカ キーミナ ソスルベ キー
しるはー てんちの きしんの みー
シタ ハメ ヒートハ ヨモアラ シー

管 公

- (一) 學者の家に身は出でて、たちまち上る、雲のうへ。
よし、禍にかゝるとも、いかでか君を忘るべき。」
- (二) おほはばおほへ。雲霧よ。心の月はくもりなし。
ただ一片の誠忠を、知るは、天地の鬼神のみ。」
- (三) 詩歌のわざも世にすぐれ、文字かく道は萬世の
法をつたへて、その徳を、したはぬ人は、よもあらじ。」
- (四) 生きては、君につかへたり。死しては國の文學の
まもりの神とまつらるゝ、御いつは高し、仰げ人。」
- (五) あふげ、人々、この神の、つきぬ御いつともろともに、
さかり久しき梅の花、ひらくる御代のめでたさを。」

千里の道



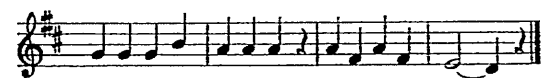
3 3 3 2 | 2 1 1 0 | 4 1 1 3 | 3 2 2 0 |

(一) チサトノ ミチモ アシモト ヨリゾ
(二) くもゐる やまも ちりひち よりぞ



5 5 6 5 4 3 | 3-2 0 | 5 5 5 1 | 6 6 6 0 |

ハジマーレー ルー ハズエノ ツユモ
なれりーけー るー ふみよむ みちも



4 1 1 6 | 5 5 5 0 | 5 3 5 3 | 2-1 0 ||

ツモレバ フチト ナルゾカ シー
ことわりのみは ひとつな リー

千里の道

(一) 千里の道も、

足もとよりぞ始まれる。

葉末のつゆも、

積れば淵となるぞかし。

(二) 雲ゐる山も、

塵泥よりぞなれりける。

書よむ道も、

ことわりのみはひとつなり。

めぐれる車



| 3 | 6.7 $\dot{1}$ 6 | 7. $\dot{1}$ $\dot{2}$ 7 | $\dot{1}$.7 67 $\dot{1}$ $\dot{2}$ | $\dot{3}$ -0 |

(一) メ グレルク ルーマナ ガルルミーゾー
(二) い はれをつ たふ しづくのーみーゾー



| $\dot{3}$ | $\dot{1}$ $\dot{3}$ $\dot{2}$ $\dot{1}$ 7 7 | $\dot{3}$. $\dot{1}$ 6 6 | 7. $\dot{2}$ 6 $\sharp$ 5 | 6-0 ||

ソ レーラーハイ コヘドヤ ムマナ シー
つ もれーばつ ひーにう みとなーるー

めぐれる車

(一) めぐれる車、
くるま

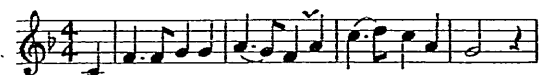
ながるゝ水、
みづ

われらはいこへど、
やむまなし。

(二) いはれをつたふ
しづくの水、
みづ

つもればつひに
海^{うみ}となる。

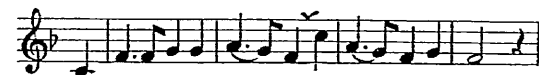
送別



5 | 1. 1 2 2 | 3. 2 1 3 | 5. 6 5 3 | 2-0 |

(一) カガヤククニノチーオヒテ

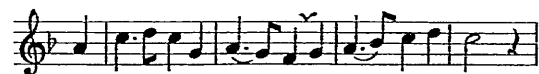
(二) うみやまほくへだつれど



5 | 1. 1 2 2 | 3. 2 1 5 | 3. 2 1 2 | 1-0 |

イサチヲトニタテントテ

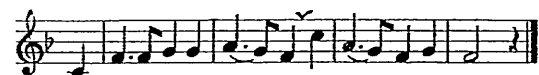
こころはかよふきみがうへ



3 | 5. 6 5 2 | 3. 2 1 2 | 3. 4 5 6 | 5-0 |

フルサトアトニイデーテユク

またれてたのしわがーともよ



5 | 1. 1 2 2 | 3. 2 1 5 | 3. 2 1 2 | 1-0 ||

キミガユクテノサチーアレヤ

にしきをきつつかへらんひ

送別

(一)

かがやく國の名を負ひて、

いさをを外に立てんとて、

故郷あとに、出でてゆく

君が前途の、幸あれや。

(二)

海山遠くへだつれど、

心はかよふ、君がうへ。

待たれて、わが友よ、

錦を著つゝ、歸らん日。

- 日光
- (一) 二荒の山のもとに、巍然とたてる東照宮。
 金碧燦爛、これぞこの
 わが帝國の美術の光。
- (二) 大谷の川の川上に、その名も響く華嚴の瀧。
 懸崖千丈、これぞこの
 わが東洋の造化のめぐみ。
- (三) 華嚴の瀧の水上に、夏なほ寒き中禪寺の湖。
 煙水渺茫、これぞこの
 わが日本の名所の一つ。

日光

日光

5.6 5 3 | 3 2 2 0 | 2.2 3 1 | 5- 0 |

(一) フタラノ ヤマノ ヤマモト ニー
 (二) だいやの かほの かほかみ にー
 (三) ケゴンノ タキノ ミナカミ ニー

5.6 5 3 | 3 2 2 0 | 3.3 3 2 5.5 | 1- 0 |

ギセント タテル トーショー グー
 そのなも ひびく けごんのだー きー
 ナツナホ サムキ チューセンジノ コー

5.6 5 4 | 3.1 5 5 | 1.7 6 5 | 6 5 5 0 |

キンベキサンラン コーレン コーノ
 けんがいせんじー こーれぞ こーの
 エンスイ ビョーボー コーレン コーノ

5.6 5 3 | 3 2 2 0 | 3 3 3 2 5.5 | 1- 0 |

リガテイ コクノ ビジュツノヒカ リー
 わがとーよーの ぞーかのめぐ みー
 リガニッ ボンノ メイジョノヒト ツー

朧 月 夜



| 5 5 6 6 | 5-3 3 | 5 i i 3 | 2- 0 |

- (一) オホロニ ニーホフ ユフグキ ヨー
ノドケキ ミーヨノ タノシミ ハー
(二) ちぐさに すーだく むしのこゑ
めにみる もーのも きくもの もー



| 2 2 3 3 2 | i- 6 6 | i i 4 3 | 2- 0 |

- サカリニ ニーホフ モモサク ラー
ハナサケー カーゲノ コノマト キー
なぎのばー そーよぐ かぜのお とー
あはれなー そーふる あきのよ やー



| 3 i 2 i 7 | i- 0 :||

- ノドーカニ テー
コノウタ ゲー
みにーしみ てー
つきーの よ やー

朧 月 夜

(一) おぼろににほふ夕月夜

さかりににほふ桃櫻、のどかにて、

のどけき御代のたのしみは、

花咲くかげのこのまとぬ。このうたげ。

(二) 千ぐさにすだく蟲の聲

をぎの葉そよぐ風の音、身にしみて、

見るものも聞くものも、

あはれをそふる秋の夜や。月の夜や。

湖上の花



5. 5 6 5 3 1 | 1. 1 2 1 6 5 | 5. 6 5 3 | 2- 0 |

(一) カガミノゴートータータヒラカニ
(二) むかしーのーみーやーこーあともなくー
(三) ササナミーターデーデーフクカセモ



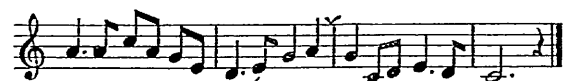
3. 2 1 2 3 4 | 5. 5 6 5 6 1 | 5 3 1 2 3 | 1- 0 |

スームーヤービハコーノミヅノウヘー
たーえーてーさびしーさーしがーのさとー
ケーサーハシヅケーキミヅノウヘー



1. 1 2 1 6 5 | 5. 5 6 5 3 1 | 2. 1 2 3 | 5- 0 |

ウツルハユキカシラクモカー
にーほーふーさくらーのーいろばかりー
ニゴサメホードニフタツミツ



6. 6 1 6 5 3 | 2. 3 5 6 | 5 1 2 3. 2 | 1- 0 ||

ウツカメーカゲモホモシロヤ
かほらぬーはーるのくろーごにー
コホレーシハナモナツカシヤ

湖上の花

(一) 鏡^{かがみ}の如^{ごと}く、たひらかに すむや、琵琶湖^{びわこ}の水^{みづ}の上^{うへ}、

うつるは雪^{ゆき}か。白雲^{しらくも}か。

動かぬ影^{かげ}もおもしろや。」

(二) むかし^{みやこ}の都^{みやこ}あともなく たえてさびしき志賀^{しが}の里^{さと}、

にほふ櫻^{さくら}の色^{いろ}ばかり

變^{かは}らぬ春^{はる}のくるごとに。」

(三) さゝなみたててふく風^{かぜ}も けさは静^{しづ}けき水^{みづ}の上^{うへ}、

にごさぬ程^{ほど}に、二つ、三つ、

こぼれし花^{はな}もなつかしや。」

五常の歌

Musical score for "五 常 の 歌" (Go Jo no Uta) in G major (one sharp) and 4/4 time. The score consists of four staves of music with corresponding lyrics in Japanese and numbered notation (1-5) for the five virtues.

Lyrics (Staff 1):
 (一) 野邊の草木も、あめつゆの恵にそだつまみれば、
 (二) 飛驒の工がうつすみに、曲もなほるさまみれば、
 (三) 威儀ほかにあらはれて、慎みてゐるさまみれば、
 (四) 仁てふものは、世の中の
 (五) 義といふものは、世の中の

Lyrics (Staff 2):
 ひとのこゝろの命なり。
 ひとのこゝろの條理なり。

Lyrics (Staff 3):
 ひとのこゝろの命なり。
 ひとのこゝろの條理なり。

Lyrics (Staff 4):
 ひとのこゝろの命なり。
 ひとのこゝろの條理なり。

(第五集)

五常の歌

(第五集)

(一) 野邊の草木も、あめつゆの恵にそだつまみれば、
 仁てふものは、世の中の

ひとのこゝろの命なり。

(二) 飛驒の工がうつすみに、曲もなほるさまみれば、
 義といふものは、世の中の

ひとのこゝろの條理なり。

(三) 威儀ほかにあらはれて、慎みてゐるさまみれば、

禮れいてふものは、世よの中なか

ひとの心こころのおきてなり。」

(四) 神かみのかくせる祕事ひみつも、さとりえらるゝさまみれば、

智ちといふものは、世よの中なか

ひとのこゝろの寶たからなり。」

(五) 月日つきひとともに、天地あめつちの めぐりたがはぬさまみれば、

信しんてふものは、世よの中なか

ひとのこゝろの守まもりなり。」

吉野山

(一) 空そらにすみゆく琴ことの音ねに ひかれてあそぶ少女かとめこが
袖そでを五いつたびかへしつゝ、舞まひしは、こゝよ。この山やまよ。

たちかへり、またも來こん、

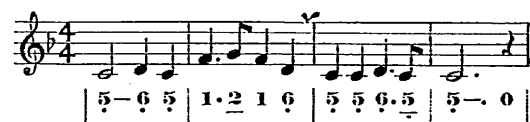
み吉野よしのの花はなのかげ。」

(二) 亂みだれゆく世よのかなしさは、皇居こうきょをしばし山やまかげに
遷うつしたまひて、まつりごと、きかせまししも、こゝなれや。

塔との尾なのみさゝぎは

松まつふるく、風かぜかなし。」

吉野山



(一) ソーラニ スミユク コトノネ ニー
(二) みーだれ ゆくよの かなしき はー



ヒカレテ アー ツア ナトメゴ ガー
こー きな しー げし やまかげ にー



ソー デチ イツ タビ カヘシツ ツー
うー つし たまひて まつりご とー

吉野山 (つづき)



マヒ シハ コー コヨ コノヤマ ヨー
きー かせ まししも ここなれ やー



タチ カ ヘ マ タ モ コン
とー の な の み さ さ ぎ は



ミヨ シノ ノ ハ ナノ カー ゲー
まつ ふ る く か ぜ か なー しー

夏は来ぬ



5 3 4 5. 5 | 6 1̇ 5 2̇ 1̇ 6 5 | 6 1̇ 6 5. 5 |

(一) ウノハナノ ニホフカキネニ ホトトギス
(二) さみだれの そそぐやまだに しづのめが
(三) タチバナノ カチルノキバノ マドチカク
(四) あふちちる かはへのやどの かどとほく
(五) サツキヤミ ホタルトピカヒ クヒナナキ



6 2 2 5 3 1 2 | 1 3 5 5 5 | 6 5 6 1̇ 5. 5 |

ハヤモキナキテ シノビーネ モーラー スナ
もすそねらして たまなへー うーうーるな
ホタルトピカヒ サコタリ イサムールナ
くひなこゑして ゆふづーき すずしーきな
ウノハナサキテ サナヘー ウ エヲター スナ



1̇. 3̇ 2̇ 2̇ | 1̇ - 0 - ||

ツーハキ ヌー
つーはき ぬー
ツーハキ ヌー
つーはき ぬー
ツーハキ ヌー

夏は来ぬ

(一)

うの花のほふ垣根に、時鳥

早もきなきて忍音もらす

夏は来ぬ。

(二)

さみだれのそそぐ山田に、賤の女が

裳裾ねらして、玉苗うゝる

夏は来ぬ。

(三)

橘のかをるのきばの窓近く、

螢とびかひ、おこたり諫むる

夏は来ぬ。

(四)

棟ちる川への宿の門遠く、

水雞聲して、夕月すすしき

夏は来ぬ。

(五)

さつきやみ螢とびかひ、水雞なき、

卯の花さきて、早苗うゑわたす

夏は来ぬ。

水およぎ

(一) ナー ツ ノ ヤ ス ミ ハ キ タ リ タ リ
(二) そ ら ま で つ づ く ハ う な ば ら の
(三) タ ノ シ キ コ エ ナ ト モ ト シ テ

ア ツ キ サ カ リ ハ ム カ ヘ タ リ
み づ な し ヘ の に ば と し て
ケ フ ハ ア ツ サ ワ ス レ タ リ

イ ザ シ ノ キ ミ ニ シ タ ガ ヒ テ
う て よ ヤ な み の お ほ つ づ み
ヨ セ ク ル シ ホ ノ ハ ヤ キ セ ニ

オ ヨ ギ ヤ ナ ラ ハン モ ロ ト モ ニ
ア ス モ カ ラ ダ キ タ ヘ マ シ

(第五集)

水およぎ

(第五集)

(一) 夏の休は来りたり。あつきさかりは迎へたり。

いざ、師の君に随ひて、およぎならはん、諸共に。

(二) 空までつづく海原の水を教のにはとして、

打てよや。波の大鼓。蹈めよや。波の足拍子。

(三) 楽しいし聲を友として、今日は暑さを忘れたり。

よせ来る汐の早き瀬に、明日も身体を鍛へまし。

(四) からだは黒く、肉こえて、病いりこん隙もなし。

およぎの功たゝへつゝ、うたへや、波と諸共に。

(五) 海を愛して、恐れぬも、泳覚えし身の徳ぞ。

今は泳も覺えたり。いかでか水に溺るべき。」

(六) 大海原にかこまるゝ、わが日の本の國の民。

廣き四海を家として、國の名あげよ、君のため。」

舊友

(一) ふたゝび君と手を取りかはし、昔を語るうれしさよ、

思へば夢か、唱歌をとものに うたひし松の下蔭に。」

(二) 涙ながらに東と西に 別れしことは、昨日、今日。

數へて見れば、早くも四年。月日のあゆみ、水に似て。」

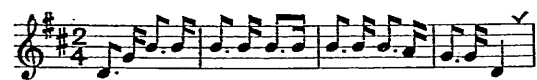
(三) 蕨をとりに入りたる山邊、小鮒をつりにいてし川、

今も事なきわが友だちを 迎へて、かたれ、すぎし日を。」

(四) 窓なる松は昔の緑。手をとる友は、もとの友。

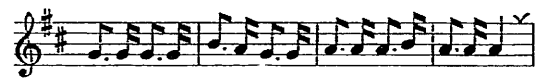
今宵はやどれ、わがすむ家に。をさなき頃の話せん。」

西郷隆盛



1. 4 6. 6 | 6. 6 6. 6 | 6. 6 6. 5 | 4. 4 1 |

(一) ココロモ フカキー サツマノ ウミニ
(二) はーなれ こじまに みほはふ られて
(三) ジセイ トモニー ヒソメル タツノ



4. 4 4. 4 | 6. 5 4. 4 | 5. 5 5. 6 | 5. 5 5 |

ミクニナ ウレヒテ シヅミシ ヒトノ
なーほも くじけぬ きりよくの れんま
クモキニ サドルー トキコソ キツレ



1. 1 1. 1 | 5. 5 5. 5 | 6. 6 6. 6 | 5. 3 1 |

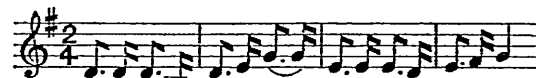
ヒトリハ シニテー ヒトリハ イキヌ
あくれば いでてー のやまに かりし
オーセイ イシンノ ソノダイ ギョーモ



3. 2 2. 2 | 5. 5 5 | 5. 5 5. 6 | 5. 5 1 ||

クモラヌ ツキハ センコニ タカシ
くるれば いりて とくしに ふける
ナカバハ キミガ タテタル イサナ

舊友



5. 5 5. 3 | 5. 6 1. 1 | 6. 6 6. 5 | 6. 7 1 |

(一) フタータビキミ トーテナリカシ
(二) なみだなる なりニヒリタルハシ
(三) ヲラビナ トリニイリタルマベリ
(四) まどなる まつばーむかのし



3. 3 3. 2 | 1. 2 3 | 1. 6 6. 5 | 5. 0 |

ムカシナシタルルサヨハハ
わがナとコトニハ カキイシカ
てなととしは しとの



3. 3 3. 2 | 3. 4 5. 5 | 2. 2 2. 1 | 2. 3 4 |

オモヘパテ ムカキー ショーカチ トモニ
ガモヘマ ムコトナレハヤカ トモニ
イコヒコヤドナレハヤカ トモニ



5. 3 3. 2 | 1. 2 3. 3 | 1. 6 6. 5 | 5. 0 |

ウタヒシマツノシミダニニ
タヒシマツノシミダニニ
カヒシマツノシミダニニ

西郷隆盛

- (一) 心もふかき薩摩の海に、御國を憂ひて沈みし人の、
一人は死にて、一人は生きぬ。曇らぬ月は千古に高し。」
- (二) はなれ小島に身はばふられて、なほもくじけぬ氣力の練磨。
あくれば、出でて、野山に獵し、くるれば、入りて、讀書に耽る。」
- (三) 時勢とともに、ひそめる龍の、雲居にをどる時こそ來つれ。
王政維新のその大業も、なかばは君が建てたる功。」

(第五集)

(第五集)

- (四) 心をこめし征韓論も、時いたらぬか、世にいれられず。
都をあとに見すてて歸る 故郷に田あり、兎は山に。」
- (五) すき鋤とりて、鍛へるこの身、學校たてて、養ふ子弟。
一日も國を忘れぬものを、とらせし反旗は、そも誰が業ぞ。」
- (六) あゝ、君たてり、子弟のために。あゝ、君死せり、子弟のために。
城山ゆきて、あととむらへば、何をか語る、松風の聲。」

雪中の梅松



(第五集)

雪中の梅松

(第五集)

(一) 降りつもる

雪を凌ぎて 咲く梅は、

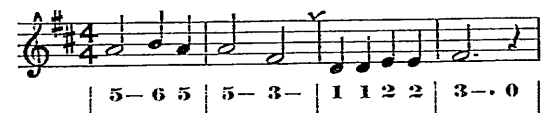
松の操に おとらざりけり。

(二) ときはなる

松にならひて、 ふる雪の

うちにもたもて、 清き操を。

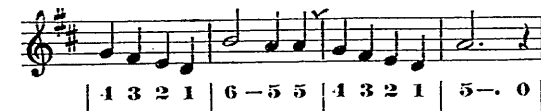
君が代の初春



(一) キーミガ ヨーノー ハツハル ノー
(二) きーみが よーのー はるくれ ばー



サカリニ ニーホフ ウメノハ ナー
こすゑに うーつる うぐひす もー



イツシカ イーロニ アラハレ テー
いつしか こーゑに うちいで てー



カサレル モーノナ ヨノヒト ヨー
さへづる もーのな よのひと よー

君が代の初春

(一) 君が代の初春の

さかりに匂ふ梅の花
いつしか色にあらはれて

かわれるものを。世の人よ。

(二) 君が代の春くれば、

梢にうつる鶯も、

いつしか聲にうちいでて、
さへづるものを。よの人よ。

朝 景 色



5 5 6 5 | 1 7 6 5 3 | 2 5 7 5 | 6 5 4 5 -

- (一) ウレシヤ カスミテ アケユク ミソーラー
 (二) うれしや すずしく あめふる あした
 (三) ウレシヤ アキゾラ クモナク ハレーテ
 (四) うれしや よべより ふりたる ゆきーに



5 1 3 2 | 1 7 6 5 3 | 2 3 4 5 1 6 2 | 1 7 1 -

- ヒカゲハ ハナノ コズエニニホフ
 たまなす つゆは わかばなつたふ
 ノコレル ツキハ カゲマデシロシ
 のやまの くまきは みなばなざかり

朝 景 色

(一) 嬉しや霞みて 明けゆくみ空。

(二) うれしやすずしく 雨ふる朝。

(三) 嬉しや秋空 雲なく晴れて、

(四) うれしやよべより 影まで白し。

野山の草木は けな花ざかり。

柳と蛙

(一) ハルサメソツケカハバタノー
(二) かのえだたかしいかにせん
(三) ソノニンタイノカヒアリテー

ヤナキノシタニキルカハゾー
わがたけひくしいかにせん
カハヅハエダニトビツキヌー

タレタルーエダニトビツカーントテ
とびてはーおちておちてはーとびて
オモヘヤーオモヘワガセーシンノ

タテハカヘメココロザシー
あーカバナコトハナシー

(第五集)

柳と蛙

- (一) 春雨そぐ川端の柳の下にゐる蛙。
垂れたる枝に跳びつかんとて、立ててはかへぬ志。」
- (二) かの枝高し。いかにせん。わがたけ低し。いかにせん。
跳びては落ちて、落ちては跳びて、あゝ幾たびか試みし。」
- (三) その忍耐のかひありて、蛙は枝に跳びつきぬ。
思へや。思へ。わが精神のとどかば、ならぬ事はなし。」

(第五集)

旅の思

(一) 海^{うみ}のあなたとこなたにて、^{かは}變^かる木^きの様^{さま}草^{くさ}の色^{いろ}。
 なれぬ花^{はな}見^みて、旅^{たび}人^{びと}は 遠^{とほ}く來^{きた}れる身^みを思^{おも}ふ。
 カリフォルニアのマンモス樹^{じゆ}、アマゾン川^{がは}の大^お鬼^に蓮^{ぢす}。
 世界^{せかい}は廣^{ひろ}し。東^{とう}洋^{よう}に まだ見^みぬものもあるぞかし。
 千^{せん}里^りの外^{ほか}の旅^{たび}路^ぢにて 櫻^{さくら}を見^みれば、日^ひの本^{もと}の
 故^こ郷^{きやう}の春^{はる}にたちかへる 心^{こゝろ}地^ぢするこそうれしけれ。
 田^た子^ごの浦^う波^{なみ}富^ふ士^じの雪^{ゆき}、なほそれよりも、故^{ふる}郷^{さと}を
 愛^めづる心^{こゝろ}のひかるゝは、裾^{すそ}野^ののみどり、三^{みつ}保^ほの松^{まつ}。
 (四)

旅の思

四 條 畷

(一) 吉野を出でて、うち向ふ
なびくは雲か白旗か。
あな物々し、八萬騎。
かれの首を取らずんば、
決死の勇にあたりかれ、
一陣、二陣、おちいりて、
めざすかたきの師直と、
敵のはかれるいつぱりか。

(二) 飯盛山のまつかぜに、
ひびくは敵の間の聲。
大將師直いづくにか。
ふたゝび生きて還るまじ。
もろくも敵は崩れたち、
本陣危く見えにけり。
思ひて討ちしその首は、
欺かれしぞくちをしき。

(三) 敵のはかれるいつぱりか。
めざすかたきの師直と、
決死の勇にあたりかれ、
かれの首を取らずんば、
一陣、二陣、おちいりて、
あな物々し、八萬騎。
なびくは雲か白旗か。
吉野を出でて、うち向ふ

(四) 敵のはかれるいつぱりか。
めざすかたきの師直と、
決死の勇にあたりかれ、
かれの首を取らずんば、
一陣、二陣、おちいりて、
あな物々し、八萬騎。
なびくは雲か白旗か。
吉野を出でて、うち向ふ

四 條 畷

(一) 吉野を出でて、うち向ふ
なびくは雲か白旗か。
あな物々し、八萬騎。
かれの首を取らずんば、
決死の勇にあたりかれ、
一陣、二陣、おちいりて、
めざすかたきの師直と、
敵のはかれるいつぱりか。

(二) 飯盛山のまつかぜに、
ひびくは敵の間の聲。
大將師直いづくにか。
ふたゝび生きて還るまじ。
もろくも敵は崩れたち、
本陣危く見えにけり。
思ひて討ちしその首は、
欺かれしぞくちをしき。

(三) 敵のはかれるいつぱりか。
めざすかたきの師直と、
決死の勇にあたりかれ、
かれの首を取らずんば、
一陣、二陣、おちいりて、
あな物々し、八萬騎。
なびくは雲か白旗か。
吉野を出でて、うち向ふ

(四) 敵のはかれるいつぱりか。
めざすかたきの師直と、
決死の勇にあたりかれ、
かれの首を取らずんば、
一陣、二陣、おちいりて、
あな物々し、八萬騎。
なびくは雲か白旗か。
吉野を出でて、うち向ふ

- (五) なほも屈せず追うてゆく。されど、身方は小勢なり。あらての敵は、遠巻に、雨のごとくに矢を注ぐ。すつる命は、君のため。いであや、世にのこせ。」
- (六) 今はやみなん。この野邊に、なき数に入る名をとめて、一族郎黨ことごとく、枕ならべて、もろともに、光は千代をてらすなり。」
- (七) 消えし草葉の露の玉、四條畷のほとゝぎす。ほまれや人に語るらん。」
- (八) 今も雲居に聲するは、わか木の楠のかぐはしき

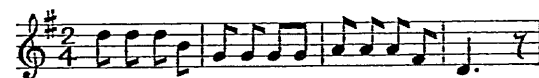
(第五集)

川中島

- (一) 西條山は霧ふかし。筑摩の河は浪あらし。遙にきこゆる物の音は、逆捲く水か。つはものか。昇る朝日に、旗の手の
- きらめくひまに、くるくく。」
- (二) 車がかりの陣ぞなへ。めぐるあひずの関の聲、あはせるかひも、あらし吹く。敵を木の葉とかきみだす
- 川中島の戦は、
- かたるも、聞くも、勇ましや。」

(第五集)

川 中 島



| 5 5 5 3 | 1 1 1 1 | 2 2 2 7 | 5̣. 0 |

(一) サイジョー ザンハー キリフカシ

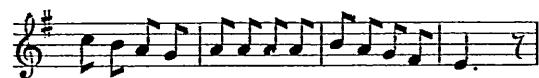
(二) くるまー がかりの じんぞなへ



| 6 6 1 1 | 5 5 5 5 | 1 1 2 2 | 3. 0 |

チクマノ カハハー ナミアラシ

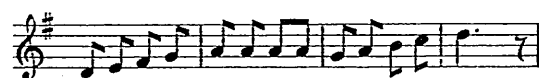
めぐるー あびすの ときのこゑ



| 4 3 2 1 | 2 2 2 2 | 3 2 1 7 | 6. 0 |

ハルカニ キコユル モノオトハ

あはせる かひもー あらしふく

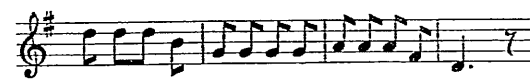


| 5 6 7 1 | 2 2 2 2 | 1 2 3 4 | 5. 0 |

サカマク ミヅカー ツハモノカ

てきなー このほと かきみだす

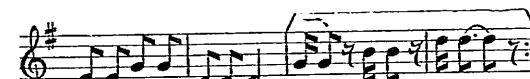
川 中 島 (つづき)



| 5 5 5 3 | 1 1 1 1 | 2 2 2 7 | 5̣. 0 |

ノポール アサヒニ ハタノテノ

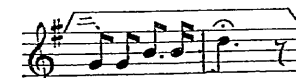
かはなか じまのー たたかひは



| 6 6 1 1 | 5 5 5 | 1 1 0 3 3 0 | 5 5 5 0 :|

キラメク ヒマニ クルクル クルー

かたるも きくも



| 1 1 3. 3 | 5̣. 0 |

いさましや

衛 生 隊

(一) デン コー ヒ ラ メ キ ラ イ ヒ ビ キ
 (二) コ シ と き め い よ の し し ム ル な
 (三) シ ャ ハー ヤ ス ケ ク ム ベ ク
 (四) て ん と う ー ち に よ ほ ふ け て

イー マ ヤ タ タ カ ヒ タ ケ ナ ニ
 てー き に わ た さ し な せ ハ と
 ショー シャハ ら ホー ク ス ズ ハ レ キ
 い く さ の ゆ め の さ む る と

ショー ハ イ イ ブ ゾ ノ ニ ヤ ニ
 だん う の ナ ナ ケ つ ね て マ ノ
 アー ツ キ ナ サ ハ テ キ グ の ノ
 か た へ に た ー ち ー ー ば

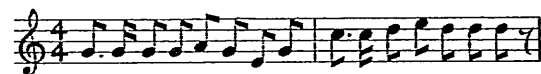
ター フー ルー ショー シー ハー
 ウー ニー モン か ん ヨー ブー
 あ ー ー あ い の ズー え
 あ ー ー あ い の ズー え

(第五集)

衛 生 隊

(一) 電光ひらめき、雷ひびき、
 勝敗いづれぞ。野に山に
 (二) この時、名譽の死傷者を、
 彈雨の中をつれてのく、
 死者は安けく眠るべく、
 (三) あつきなさは敵軍の
 テントの内に夜はふけて、
 (四) かたへに立ちていたはるは、
 今や戦たけなはに、
 倒るゝ將士は數知れず。
 敵にわたさじ、死なせじと、
 あゝ、勇敢の衛生隊。
 傷者は多く救はれん。
 上にも及ぶありがたさ。
 いくさの夢のさむるとき、
 あゝ、仁愛の衛生隊。

わが陸軍



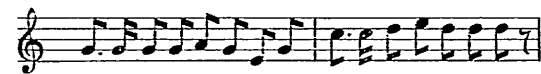
5. 5 5 5 6 5 3 5 | 1. 1 2 3 2 2 2 0 |

(一) カガヤクアサヒノハタホシタテ
(二) ぶゆーしすぐれてなさけもあつき
(三) ショーエンダンサノミダルルナカモ
(四) きづきにきづきしそのじゅーるい



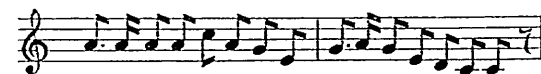
6. 6 6 6 1 6 5 3 | 5. 6 5 3 2 2 2 0 |

クリダスタイゴノラッパノヒビキ
にっぽんだんじのいさぎよくな
テツジョーモ一サヘハサのたいほーも



5. 5 5 5 6 5 3 5 | 1. 1 2 3 2 2 2 0 |

サスガニトトノフツガリクケン
かりにしもけがさんふるまひあらば
ハガシクツキコメンサシズノママニ
なにかはたのまんたのむはひと



6. 6 6 6 1 6 5 3 | 5. 6 5 3 2 1 1 0 |

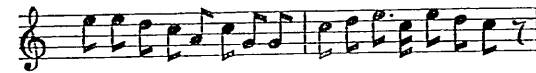
ヒカリハチマチカ
さくらハチマチカ
わがくにちと
わがくにちと

わが陸軍 (つづき)



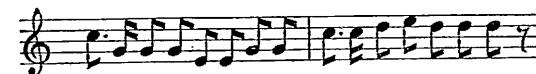
2. 2 2 3 5 5 3 5 | 6. 6 1 1 2 2 2 0 |

イヤテリヲタリテホマレハコニコ
ちゅーじんぎはしばしのほども
コレコソワガクニユシノカガミ
ぎたみてひかざるなをしきこころ



3 3 2 1 6 1 5 5 | 1 2 3 1 3 2 1 0 |

ニヒタカヤマトゾヨニアフがるル
みはなたじんざいこなるし
ホマレハソトイソノハハ
これそとよへいわのま



1. 5 5 5 3 3 5 5 | 1. 1 2 3 2 2 2 0 |

イッチョーコッかニコトアルト
いっちーコッかニコトアルト
いっちーコッかニコトアルト
いっちーコッかニコトアルト



5. 5 5 3 2 2 2 1 | 5 1 3 2 2 5 1 ||

いのちササゲテスス
いのちササゲテスス
いのちササゲテスス
いのちササゲテスス

わが陸軍

- (一) 輝く朝日の旗おしたてて、くりだす隊伍の喇叭の響き。
さすがに整ふわが陸軍の光は、たちまち海外までも
いや照り渡りて、譽はこゝに新高山とぞ世に仰がるゝ。
一朝國家に事ある時は、命を捧げて進めや。兵士」
武勇もすぐれて情も厚き日本男兒の潔き名を、
假にも汚さん振舞あらば、櫻の花よと、誰れ歌ふべき。
忠孝仁義はしはしの程も身を放たじと、いざ、心して、
一朝國家に事ある時は、命を捧げて進めや。兵士」

(第五集)

(第五集)

- (三) 硝煙彈雨のみだるゝ中も、鐵條網さへ張りたる野邊も、
激しく突き込め指圖の儘に。決死は素よりかたての覺悟。
これこそわが國勇士の鑑。譽は萬代、その名は八千代。
一朝國家に事ある時は、命を捧げて進めや。兵士」
(四) 築きに築きしその城壘も、備へに備へしその大砲も、
何かは頼まん頼むは一つ、わが國愛するわが軍人の
義を見て引かざる雄々しき心。これこそ東洋平和の守。
一朝國家に事ある時は、命を捧げて進めや。兵士」

教育唱歌全八冊

明治二十九年一月二日第一集	印刷
明治二十九年一月十日第一集	發行
明治二十九年五月十五日第二集	印刷
明治二十九年五月廿六日第二集	發行
明治二十九年八月一日第一集訂正再版發行	發行
明治二十九年十二月廿五日第二集訂正再版發行	發行
明治三十年十二月十五日第二集訂正三版發行	發行
明治三十年十二月廿五日第一集訂正三版發行	發行
明治三十一年七月五日第二集訂正四版發行	發行
明治三十八年八月十四日修正五版印刷	
明治三十八年八月十七日修正五版發行	

定價各冊金拾五錢

著作權所有☆不許拔萃

編纂者 教育音樂講習會

發行所 西野虎吉
東京市小石川區小日向水道町七十三番地

印刷所 野村宗十郎
東京市京橋區築地三丁目十五番地

發行所 東京開成館
東京市小石川區小日向水道町七十三番地
電話特番町三五五番

發行所 大阪市心齋橋通北久寶寺町角
大阪開成館 三木佐助

發行所 東京市日本橋區通三丁目
六合館 林平次郎

